

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0370300311		
法人名	医療法人 勝久会		
事業所名	グループホーム綾姫		
所在地	岩手県大船渡市三陸町綾里字清水67		
自己評価作成日	平成24年11月7日	評価結果市町村受理日	平成25年3月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku_ip/03/index.php?action_kouhyou_detail_2011_022_kihon=true&Jigvossocd=0370300311-00&PrefCd=03&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	(公財)いきいき岩手支援財団
所在地	岩手県盛岡市本町通3丁目19-1 岩手県福祉総合相談センター内
訪問調査日	平成24年11月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

周りには海、山、田んぼがあり自然豊かな環境に囲まれた地域に事業所が位置しており、ホームを出れば散歩道もあり、天気がいい日には、利用者様が外に出やすい環境にある。同法人が行なっている1階にあるデイサービスとの交流もあり、入浴に関しても大きい入浴場を借りて温泉気分を味わうことができる。ご近所から、畑で採れた野菜を頂いたり交流もある。入居者様のペースに合わせ、生き生きと生活できるよう支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

既存の建物を改修したもので、1階がデイサービスに、2階がグループホームとして利用されている。隣接して民家があり、近くには小学校、中学校、保育園、国保診療所や漁港等があり、恵まれた環境の中にある。利用者のペースを大切に、能力に合わせた生活が行われるように支援が工夫されている。無理を決して強くないような生活、やることによって喜びを持たせる支援を目指している。外に出たいといえれば一緒に散歩に出かける。買い物希望すれば職員が付き添って出かけるといったことが自然に行われるようにしている。また、職員には、マニュアルの見直しを通して、ケアのあり方について改善しようとする動きがみられる。マニュアルは形だけのものとせず、同じ考え方で支援できる規範づくりに取り組もうとする気持ちは大切なことと思われる。今後の動きに期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を出勤者に聞き口頭で答えてもらい業務に入るようにしている。覚えることで理念を共有するようになった。	「共に笑顔で、本人のペースを大事に、優しいケアを提供する」を理念として支援に取り組んでいる。理念は、3年前前に職員で話し合い、作られたもので、毎日仕事に入る前に職員に話してもらうことで、意識付けを行っている。また、玄関やリビングに掲示している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の小、中学校から行事のお誘いがあり参加している。回覧板をまわし、野菜を頂いたり、草刈りにも参加し交流している。	散歩や、買い物に出かけ、地域住民と挨拶や会話を交わしている。自治会の回覧板を廻して貰ったり、草刈等の環境整備作業にも参加している。また、夕涼み会(事業所主催)に多くの方が参加し、出店を手伝って貰っている。利用者が主人公になれるような運営が行われた。敬老会にも参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学校から清掃活動に來たり、夕涼み会では地域の小学生を招待し交流の場を設けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームでの活動状況を毎回報告している。消防署にも参加して頂き、防災、災害について話を聞く機会も増えている。	会議は2ヶ月ごとに開き、利用者もいるリビングで行われている。利用者の状況やサービスの実際について報告し、意見をいただいている。地域情報を教えてもらったり、ホームの利用状況や行事などについて報告し、意見が交わされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市で行われている月1回の事業所連絡会に参加している。又、運営推進会議にも参加して頂き、状況を話す機会、助言を頂いている。	広報を配布したり、地域のケア会議に参加し、状況を報告している。行政からは、制度の変わったことや避難場所の情報提供を受けたりしている。分からないことがあれば相談できる関係が作られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホームが2階部分であり、階段が急である為、出入口には施錠している。ホームでは、「身体拘束ゼロ宣言」を掲示し、法人内での研修会を行ないながら、身体拘束のないよう取り組んでいる。	法人内での研修会を行うなど、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。ホームは2階にあり、エレベーターは使用するときだけ電源を入れており、自由に出入りは出来ない。階段は、急な造りの為、普段は危険防止上、施錠されている。必要に応じて開けるようにしている。無理やりお風呂に入れたり、歩きたいのに抑えたりしないようにしている。	身体拘束ゼロ宣言の文言は、掲示されているが、具体的な内容が見えてこない。鍵についても安全のためだから仕方ないとされているが、そのことがどういう意味を持ち、本当に工夫の仕方がないのか見直しが望まれる。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内研修や外部研修に参加し、職員全員で虐待防止に努めている。また、委員会で作成したマニュアルを活用し、いつでも対応できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、日常生活自立支援事業を利用されている方もおられる。利用者やご家族の環境やニーズに応じ、相談や支援を行なっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前の説明時に十分に時間をかけて、理解して頂けるよう努めている。利用料金や起こりうるリスク、重度化や看取りについての対応等、詳しく説明し、同意を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に投書箱を設置している。家族面会時には、利用者の様子を伝えたり、気軽に話が出来るような環境作り心がけ、ケアプランのサインをもらう際に要望を聞き反映させている。	それぞれの利用者に関する要望(できるだけ外出させてほしい、お花に水をあげさせてほしい等)の聞き取りは行われているが、運営に関する意見の聞き取りは行われていない。	利用者や家族がサービスに満足しているのか、心配なことはないのか 事業所として把握しようとする姿勢は大切と考える。何をどのような形で聞き取るのかアンケートの項目等検討しながら実施に向けての努力を期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	2ヶ月に1回の会議や「ケア報告連絡相談シート」を活用し、職員からの意見を発信する環境を整えている。また、普段から気付いたことを管理者に提案し、職員とコミュニケーションをとりながら反映するようにしている。	「ケア報告連絡相談シート」に、職員が気づきを記入し回覧している。また、直接話し合っ、不安等を聞き取り、業務改善に繋げている。防災や緊急時の対応マニュアルが必要だと意見を受けて、これから取り組むこととしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	臨時雇用職員に関しても資格取得に向け支援を行なっている。資格取得者には正規雇用採用をする機会がある。代表者は、給与水準に関して、介護職員の待遇改善に向けて積極的に国や県へ働きかけを行なっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員1人1人に委員会活動等の責任ある仕事を持たせ、スキルの向上を図っている。また、部署内での勉強会を定期的開催したり、外部研修へも出来る限り参加するようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム主催の会議や研修に参加し勉強会や他ホームとの情報交換、交流しながら、サービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	実態調査のマニュアルを見直し、又、訪問も2名で行うようにし、さまざまな視点からの情報を得るようにしている。直接本人と会い、話を聞きながら不安や要望を伺い、入居後、戸惑うことなく生活出来るよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の実態調査で家族ともよく話し、家族からの要望や不安なことを聞き、入居後も気軽に相談できる環境作りに努めている。面会に来られない家族には手紙やパソコンのメールを活用している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームの特徴を説明した上で本人、家族に必要と思われるサービスについても説明している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	買い物や掃除、食事の準備など日常生活で行うことにより共に生活しているという意識を持てるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時にホームでの様子を伝えるだけでなく、行事などへ家族を招待し本人、家族、職員が共に過ごす機会を設けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時、病院受診後に状況報告を行なっている。又、なかなか面会に来られないご家族には3ヶ月に1度、近況報告の手紙や写真を送らせて頂き、疎遠にならないように努めている。	理美容関係は、ホームに出張してくれる業者を利用している。個々の馴染みの関係については、本人や家族から聞き取ったり、面会に来た方々から聞き取っている。地元のお祭りに行ってみたいとの要望を受けて、ドライブしたり、お盆やお正月には帰宅して自宅で過ごせるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一緒に掃除、茶碗拭きなどすることにより利用者同士の関わりも見られている。体調不良の方を気遣う姿も見られ、なかには食事介助する利用者もおられる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在もホームに野菜を持ってきて下さったり、行事への参加も促し、交流が続いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人、家族との普段のコミュニケーションから希望や意向などを把握するよう努めている。それらをケアプランや申し送り表を活用して、職員間でも共有している。	入居前には、職員2名が家庭訪問し、色々な角度から聞き取りを行うようにしている。聞き取りの困難な方については、家族から聞いたり、本人の表情や動きから気持ちを汲み取るようにしている。日々のかかわりの中で聞き取ったことは記録し、共有を図りつつ、ケアに活用している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から情報収集を行っているが不足している部分も多い。本人とのコミュニケーションをもとに、生活歴等を探り、今後のケアに活かしていきたい。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活での入居者1人一人の変化を見逃さないよう、心身状態、能力等の把握をし、その情報を職員間で共有し記録に残している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングを詳しく記入するようにし、今できることは継続し、できないことはそれに代わる何かを提案したりしている。それを基にカンファレンスでは意見やアイデアを出し合い、今の本人に合った介護計画を作成している。	利用者ごとに担当職員を決めている。カンファレンスでの話し合いを参考に、担当者がプランの原案を作成している。家族からは、事業所訪問時に聞き取りしたことや、ケアプランの説明を行う際に更に聞き取るようにしている。モニタリングも担当者が中心となっており、カンファレンスでまとめている。見直しは、基本的には、3ヶ月ごとに行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や介護計画に基づいたケアを実践し記録に残し、ケア報告連絡相談シートを使い実践に繋げている。ささいなことでも情報の共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ADLの低下や状態変化の際には、家族と相談し、状況に応じた他事業所の説明をしている。必要時には、その事業所に相談し家族に報告している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	月1回の移動図書館を利用している。消防、保育園や小、中学校へお便りを配り、入居者が住み慣れた地域で暮らせるよう状況を把握して頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族が希望するかかりつけ医を受診し、その都度、状態報告等を家族へ行っている。家族が付き添える場合は口頭や文書にし手渡し、主治医に話して頂いている。	本人や家族が、希望するかかりつけ医の受診が行われている。基本的には、家族同行の受診になっているが出来ない時には、職員が代行している。受診連絡表を作成し、主治医からの指示を記入してもらったり、ホームでの様子を分かるように伝えるようにしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回、兼務看護師が訪問し、健康指導を行なっている。個人の申し送り用紙を活用し、情報の共有に努めている。状態変化時は、その都度相談し助言を頂いており、対応は24時間可能となっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	職員が何度も御見舞いに行き、家族や病院関係者から情報を聞き、状態把握に努め退院後も安心して生活できるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者の状態変化を家族に説明している。重度化、終末期にはできるだけ本人や家族の意向を尊重していきたい。しかし、ホームでは対応出来ることも限られることから、チーム内でも話し合った上で本人、家族等が納得できるケアを提供していきたい。	点滴、胃ろう、酸素療法等の医療面が必要となるとお世話が難しいかもしれないと考えている。褥創ができたり車いすを使用しているも自分の口から食べることができればお世話をしていきたいと管理者は考えているが、緊急時救急車で搬送する時間が30分かかることから、課題も残されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訪問看護との定期的なミーティングを行い様々な急変に備えてマニュアルを作成している。ホームでも緊急に備えて勉強会を予定している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	震災後より毎月想定を変えて避難訓練を行なっている。津波注意報が発令された地元職員が駆けつけるモバイル通信にて携帯電話を通じて知らせている。	毎月11日を訓練の日と決め、様々なことを想定しながら、消防署の協力の下に、訓練が行われている。非常事態を考えて、送迎者の無線連絡の活用について考えている。非常時持ち出し品についても、チェックが行われている。2階からの避難であり、狭い階段やエレベーターが避難経路になっているので、確実な避難に向けての準備が課題となっている。	暗い時間帯に訓練を行い、その動き等を運営推進会議委員にも見てもらい、避難の仕方について検証されることを望みたい。また、避難時に、地域住民から協力を頂けるような体制作りにも取り組まれることに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの意思を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉使いに注意して対応している。	利用者のお名前呼び方やトイレ誘導、入浴介助の際の声かけに注意しながら取り組んでいる。方言を使いながら、優しく話しかけている。排泄や入浴時にもさりげない言葉で不快感を与えないように、ケアに当たっている。人生の先輩者であることを念頭に、(利用者の)自尊心を損ねないケアに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々、本人の希望を伺う為、できるだけ個人の意見を尊重する様心掛け、声掛けも依頼形にならず、自己決定できるような声掛けを行なっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人一人のペースを大切にしている。外出希望のある利用者には散歩、買い物、昼寝したい利用者には希望に沿って柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族の付き添いが困難な事が多い為、現在は美容師の方に来て頂きホームで散髪して頂いている。入浴時、外出時等、利用者本人に、着たい服を選んで頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は利用者の好みや状態にあわせたり、旬の食材を使用したりと工夫している。利用者の誕生日には誕生会を行い、おやつ作り等行なっている。盛り付け、片づけは毎日一緒に行なっている。	献立作りは、同じ法人内の管理栄養士の指導を受け、職員が交代に行っている。季節を考えつつ、(利用者の)食べたいものを探っている。下げ膳や食器拭き、後片付けなどには、利用者も一緒に行っている。誕生会には、利用者メニューを相談し、おやつ作りを楽しんでいる。昼食は、全職員が同じテーブルで食事をいただき、雰囲気作りにも努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人内管理栄養士が2ヶ月に一度、ホームへ訪問し栄養指導して頂き、専門的な観点からアドバイスを頂いている。毎日の食事、水分の摂取量を記録し把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人一人に合わせた方法で、口腔ケアを行なっている。利用者の状況に合わせて、その都度、口腔ケア方法を検討し、実施している。週に一度、義歯の消毒を行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用い、排泄パターンの把握に努め、声掛けにてトイレへの誘導を行っている。尿便意、曖昧な方には、トイレで排泄できるよう支援している。	排泄チェック表を活用し、さりげない声かけでトイレに誘導を行っている。パンツを汚さなくなった利用者も出ている。汚した場合には、トイレや居室で交換し、羞恥心へも配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量のチェック、低下の防止を行っている。管理栄養士の指導を受け、繊維の多い食材や乳製品、果物を取り入れた献立を工夫している。余暇時間には、散歩や活動を行い、排便を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	意志疎通が可能な方には希望を聞き、タイミングを合わせ入浴して頂いている。1階のデイサービスの広々とした入浴場を借りて、温泉気分を味わって頂いている。同性介助を望む方には入浴日をずらして対応している。	車いすの方や仲の良い人達どうしは、1階のデイサービスで、入浴することも多い。入浴しながらの方については、声掛けを工夫しながら、週に2回位は入れるように支援している。入浴前には血圧や体温をチェックするようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調を観察し、疲れや異変が見られる利用者様には休息してもらうよう促している。夜間、良眠するため、出来る限り日中活動的に過ごして頂けるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の準備は職員が行い、服用の確認チェックを行なっている。職員が薬の内容を把握できるよう努めている。服薬時にはチェック表を用い服薬介助にて誤薬や飲み忘れを防止している。その一つとして一包化を行なっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	皆と一緒に楽しめるもの、一人で楽しみたいもの、買い物、散歩等、それぞれに合わせた支援を行なっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族の方に協力して頂き、外出の機会を設けている。なかには、自宅へ外泊している方もいる。現在は食材を買いにスーパーへ行き、利用者と職員で買い物を行なっている。全員でドライブや地域のお祭り、小学校行事へ招待して頂き、観に行っている。	お天気の良い日には、週2回くらい、ホームの周辺を散歩し、地域住民の方々と挨拶や、会話を交わしている。職員と一緒に、食材の買い出しに出かけている。全員では、お祭りを見物しにドライブしたり、小・中学校の学習発表会や運動会総練習などに出かけている。家族の配慮等で、自宅に外泊も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で所持されている方とホームで預かっている方がおられ、欲しいものがある場合、出来る限り一緒に出掛け、購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に本人が電話をできるよう支援している。家族から電話があった際にはとりつぎ、コミュニケーションの場を作っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	水木団子作り、七夕飾り作り等で、季節行事を通じて、季節感を出す工夫をしている。リビングに、その季節に合った花や造花を飾り、四季を感じて頂いている。廊下には、行事の写真を掲示し、行事ごとに写真を変え、利用者の方々に写真を通じて、季節感を感じて頂いている。	リビングは、日光が差し込み、明るく、静かである。四季の変化に触れながら、のんびりと過ごしている。季節の花を飾り、正月や七夕などの行事に合わせて、飾り物を備え、家庭的な雰囲気作りに努めている。テーブルには、気の合う方が隣りに座れる配慮もされている。畳の間もあり、寝転んで休むことも出来る。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングで過ごす利用者の方が多く、テレビの近くに畳とソファを置き、くつろげるスペースを作っている。仲の良い利用者の方同士の席に配置する事で、お茶飲みや談笑できる空間がある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様のなじみの物を選んで頂けるようその旨をご家族に説明している。その方の習慣を変えることなく安心して過ごせる居室作りに配慮している。居室や廊下には、行事等の写真を貼り、入居者様が楽しめるよう工夫している。	居室には、筆筒や衣装ケース、テレビ、こたつ、家族写真、カレンダーなどが持ち込まれ、思い思いに過ごせるように工夫されている。位牌と一緒に過ごされている利用者もいる。職員と一緒に部屋を整備し、居心地良く過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様が自分の居室がわかるように近所で頂いた木材を利用して表札を掲示したり、混乱時には、その原因に合わせた対応を検討し、環境を整えるようにしている。		